

目指す学校

本校は真に自立した社会人の育成を目指す学校である。そのために、「あいさつを大事にして職業人としての立ち居振る舞いができる生徒」、「就職試験に合格できる学力の定着」を育成目標として掲げ、総合技術科の特色を生かして、教職員が学習指導、進路指導、生活指導、自立支援等に組織的に取り組む学校を目指す。

具体的な学校像

- 1 人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、いじめや体罰のない学校
- 2 企業や保護者から信頼され、ものづくりをとおして社会に貢献していく人材を育てる学校
- 3 法令を守り社会規範、社是・社訓、就業規則の内容を理解し適正に職務を遂行できる態度を着実に身につけさせる学校
- 4 将来、就業先で上司から指示、指導・助言された内容を素直に履行できる態度を育てる学校
- 5 書類作成上必要な基礎的な技能と、読み書き、計算の能力を着実に身につけさせる学校
- 6 挨拶を基本とする社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身につけさせる学校
- 7 日本国の一員として納税の義務を果たし、社会に貢献できる社会人を育てる学校
- 8 基本的生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった社会人を育てる学校
- 9 自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる社会人を育てる学校
- 10 教職員が一丸となって生徒に必要な態度と能力を身につけさせる学校
- 11 保護者・地域から信頼され、保護者・地域と一体となって教育を推進できる学校
- 12 教育活動の円滑な実施に向け、自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
- 13 進学、就職に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
- 14 教職員のサービスの厳正を図り、服務事故のない学校

中長期目標

本校の教育課程に設置された機械科目、食品工業科目の特色を出し、新たに電気工事関係、環境設備関係科目の導入の検討を継続させ、産業界から求められる人材を育成するための教育を創造する。また、東京都の都立高校改革推進計画・新実施計画に基づき、校舎の改築及び施設・設備の改修の検討を進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持される学校づくりを推進する。

方策

- 1 地域の関係団体及び企業、都民などへのニーズを把握するとともに、東京都中小企業公社、商工会議所、地域の若者サポートステーション等の協力を得て、社会や産業界からのニーズに応じられる学校を開発する。
- 2 「都立高校改革推進計画・新実施計画」を踏まえ、夜間定時制のニーズを踏まえ、教育課程、校内規定の編成、募集対策、施設・設備の改修について着実に計画を進める。
- 3 平成38年度完成予定の改築の基本計画に基づいて、東京都、中野区、地域社会、学校が連携し、地域住民の理解と生徒の教育活動を維持・発展させながら着実に進めていく。

今年度の重点目標

具体的な方策

1 オリンピック・パラリンピック教育の推進

- 1 全ての教育活動をととしたオリンピック・パラリンピック教育の充実
- 2 オリンピック・パラリンピックの理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施

全ての教育活動において、大会の意義や歴史、文化的のかかわりについて学ぶ機会を設け、年間授業計画に位置づけ学校全体で組織的、計画的に取り組む。

2 中途退学者対応と規範意識の向上

- 1 YSWと連携を図った中途退学者対策事業の推進
- 2 進級規定、特別指導規定等、校内規定の見直し
- 3 中途退学者率20%以下

自立支援チームとの連携の取組や規範意識向上推進モデル校として、不登校、中途退学者への対応を組織的に進め、校内規定等の見直しを進め、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。

3 キャリア教育の充実

- 1 教職員全員による企業訪問
- 2 就労生徒の増加(90%)
- 3 3年インターンシップ希望者全員参加(100%)
- 4 4年進路決定率(100%)

体系的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社との連携による広域での企業開拓、中野区商工会議所との連携で行う地元中野区内の新規開拓等を実施し、インターンシップ・就職等、進路指導の充実を図る。

4 生徒のチャレンジの支援

- 1 生徒をもっと外に出せ！キャンペーンを展開し、年度末に新たな課題に挑戦した生徒数を把握する。
- 2 地域貢献活動、資格取得、研究発表等の支援

1 学校外活動、地域行事への参加、各種資格取得等への取組、研究発表大会等への積極的なチャレンジ・参加を奨励し、生徒の達成感と自信を醸成する。

5 次期学習指導要領に基づく学力観の転換と教員の授業力向上

- 1 新たな学力観に基づく校内研究授業の実施と授業改善
- 2 教員の相互授業観察(年間2回)
- 3 教員のICT活用授業率(100%以上)
- 4 生徒による授業評価で「分かりやすい」回答率(80%以上)

アクティブラーニングによる研究授業と教科横断的な授業改善を実施し、カリキュラムマネジメントを教科全体で進める。同教科、異なる教科各1回相互授業観察を実施し、ICT活用授業を学期に1回、年2回実施させる(授業観察、学校評価等で確認する)。2月に生徒による授業評価で「わかりやすい授業」を確認する。

6 主権者教育の充実

- 1 全ての教育活動をととした主権者教育の充実
- 2 主権者としての理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施

生徒会選挙や区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身につけるための活動を実施する。

7 サービスの厳正

- 1 全教職員におけるサービスの厳正をはかり服務事故0を目指す。
- 2 サービス事故防止研修を意図的、継続的に実施する。

都民に信頼される学校を目指し、服務事故防止研修、キャンペーン等を計画的に行うとともに日常的に注意喚起し、服務事故の未然防止に対する意識を醸成する。

| | 今年度の取組目標 | 今年度の成果と課題 |
|-----|--|--|
| 教務部 | 1 教育課程の適正な実施 2 諸帳簿の適正な管理 3 入選の適切な対応 4 募集対策の充実 5 広報活動の充実 6 生徒部との連携事業 | 講師単独で担当の教科・科目があり、早めの作業により期日までに業務は進行している。 重要事項は必ず複数の担当者で確認をしながら業務を進行し、教務部会で進捗状況を全員で確認している。 2月より本格化する都立高等学校入学者選抜における事故防止に向けて全日制と連絡を密にして、定時制内でも報告・連絡の徹底に努めている。 中学生の定時制課程への進学希望減少に効果的な対策ができずに苦慮している。全職員で文化祭、体験入学などで説明会を実施した。 年度当初、不備があったHP管理は改善されて、学校外へ情報発信が円滑に実施出来た。 ノーチャイム月間は年間3回実施したが、混乱なく実施ができた。入学者選抜一次募集もノーチャイムで実施するが、教職員に混乱はない。 |
| 生徒部 | 1 規範意識の向上を目指した生活指導の充実 2 中途退学者防止に向けた特別指導規定の見直し 3 オリンピック・パラリンピック教育の推進 4 地域社会との連携による年間をととした社会貢献活動の充実 5 関係諸機関と連携した健康教育の実施 6 給食指導の充実 | 巡回指導を通して、教室で過ごしている生徒の様子や、トイレの使用状況が把握できた。 組織的な対応の特別指導で、生徒に校則遵守の意識が芽生えた。 スポーツレクリエーション部を新設し年度当初は活性化したが、部員の集まらないクラブもあった。これからも部活動の見直しが必要である。 避難訓練で生徒の防災意識を高めた。中部フェスタに生徒会を参加させた。 歯科衛生で「歯の大切さ」、性教育で「命の大切さ」、食育講話で「食べものチェック」を指導した。 390円の給食費の安さを強調して、給食に関心を持たせた。 |
| 進路部 | 1 4年間をととしたキャリア教育の充実 2 インターンシップの充実 3 教職員の企業開拓 4 就職試験に向けた取組 5 定着率・離職率の調査の実施 | 進路ガイダンスやインターンシップ等を計画的に実施した。今後も継続的に実施する。 インターンシップ希望者4名全員が参加し成果を得られた。今後は受け入れ企業の開拓を進めていく。 就職活動時期と重なり実施することが出来なかった。 就職希望者全員の内定を取り付ける事ができた。100%達成 昨年度就職した15名について9月30日までに調査を行い3名が離職していた。(人間関係・職場の雰囲気等) |
| 1学年 | 1 中途退学者防止に向けた取り組み 2 保護者との連携 3 就労活動の検討 4 行事の活性化 | 遅刻指導や欠席指導を粘り強く行った結果、進級率85%(退学者1名)を達成した。来年度も遅刻、欠席指導は継続していく。 電話連絡や家庭訪問を行い保護者と連携して指導を行った。 少しづつアルバイトを始めている生徒もいる。YSWと連携して就労率100%を目指す。 ほとんどの生徒が行事には参加している。今後も継続して指導していく。 |
| 2学年 | 1 中途退学者防止に関する検討 2 保護者との連携 3 就労活動の検討 4 行事の活性化 | 欠席や遅刻の多い生徒には面談を行い、指導をしてきた。その結果、進級率94%を達成することができた。(退学者1名、居住地変更による退学) 年間36回学年通信を発行し、生徒の様子を伝えるとともに、保護者への連絡を行った。また、電話連絡や面談を行い、保護者と協力して指導を行った。 今年度アルバイトをした生徒は12名(クラスの75%)で、昨年よりも増えた。就労未経験の生徒も数名いるため、今後も継続して指導を行う。 行事の参加率80%以上を年間を通して維持することができた。来年度も行事を通して学校への帰属意識を持たせる指導を継続して行う。 |
| 3学年 | 1 中途退学者防止に関する検討 2 保護者との連携 3 就労活動の検討 4 行事の活性化 | 保護者との情報共有を行い、連携を取りながら授業へ参加させる指導を行いました。進級率93%を達成できました。 年間5回の学年通信を発行し、学校の様子や予定を保護者に伝えました。電話や面談を行い、保護者との連携を強めました。 インターンシップは2社で、4名の生徒が参加しました。社会人としてのマナーや、実際の仕事を学ぶことができ、大きく成長しました。 面倒と言わず、みんなで学校行事に参加して楽しみを見つけるよう指導を行いました。校外学習や修学旅行など、高い参加率になりました。 |

| | 今年度の取組目標 | 今年度の成果と課題 |
|---------------------------------|---|--|
| 4 学 年 | 1 中途退学者防止に関する検討 2 保護者との連携 3 進路活動の検討 4 行事の活性化 | 欠席累計が卒業を左右する生徒もいたため、遅刻指導、欠席指導を行いました、保護者との情報共有を行い、卒業率100%となった。 ほとんどの保護者とは連絡が取れ、保護者との連携を継続して行った。 就職希望者全員の内定を取り付ける事ができた。100%達成 年間の行事参加率は非常に高く、スポーツ大会では全種目優勝できた。 |
| 各 教 科 | 1 資格取得と検定受検の促進 2 授業や実習における規範意識の向上 3 授業力向上に関する取組み 4 オリンピック・パラリンピック教育の充実 | 調理師試験1名、食品衛生責任者5名、計算技術検定11名が合格した。今後も資格取得に向けた取り組みを継続していく。 授業開始・終了時に挨拶を励行させ、授業中の机上に必要なものをさせない指導を徹底させた。今後も継続して指導を実施する。 ICT機器などを使った授業を81%の教職員が実施した。今後も利用を促進しわかりやすい授業を実施する。 年間授業計画で示した指導案のとおり授業を実施した。今後も指導計画を作成して大会開催まで計画的に実施する。 |
| 経 営 企 画 室 | 1 学校経営状況の把握と分析 2 学校経営参画の推進 3 適正な事務運営 4 施設・設備の保安全管理 | 学校経営状況の達成状況の分析及び情報の収集分析等が不十分である。 教職員との連携についての土台作りはできた。今後、行政視点からの助言等を積極的に行っていく。 根拠や規則に基づいた事務処理の徹底及び業務進捗状況の確認の徹底を図った。引き続き業務の適正化を図っていく。 日常点検に基づきアウトソーシングによる速やかな修理等を行った。アウトソーシング対応不可案件については支援センターへ相談した。 |
| 教 育 課 程 委 員 会 | 1 教育課程の編成 2 弾力的な教育課程の推進 | 平成30年度より食品工業類型課題研究の単位を3単位から7単位に変更し機械類型と同様とする。 平成30年度より三学期制導入に伴い校内規定の改定を検討した。 |
| 図 書 運 営 委 員 会 | 1 図書館の運営に関する取組み 2 生徒の図書館利用の向上の検討 3 受託者への適切な業務指示と法令を遵守した図書館運営 | 生徒のリクエストを最大限に生かした図書の購入が行えた。 定時制の利用者は多くはないが、授業などで活用していただき、すべての学年が利用することができた。 生徒の登校状況において効果的な開館を行うことができた。 |
| 給 食 運 営 委 員 会 | 1 担任や栄養士と連携した生徒の喫食率向上の検討 2 食物アレルギーに関する対策 | 生徒部重要課題として検討し生徒向けの資料やお試し給食を実施した。今後も継続して担任等からの協力を得て喫食率向上に取り組む指導をする。 食生活管理指導票をもとに除去食確認を日常業務として教員が当たれるように当番表を作成して実施した。今後もできる限りアレルギー疾患対応を実施できる環境の整備を実施する。 |
| 学 校 保 健 委 員 会 | 1 生徒の健康づくりの推進 2 学校医等と連携した生徒の健康の促進 | 9月に委員会を実施し保健計画を立案した。11月の文化祭で、健康に関する研究発表を行った。1月に歯科医による講演会と3月に保健講話を実施した。今後も継続して指導を実施する。 2月に歯科医による講演会を実施し虫歯や歯周病などの予防学習を実施した。今後も学校医による講演会を計画し実施する。 |
| ダ ー ト 会 議 | 1 機器の管理・購入の検討 2 ICT機器に関する検討 | 予算要求時にPC等購入がある場合は、優先順位を決定する。 機器として利用しづらい面はあるが、個別のPCスキルを上げる必要がある。今後は、スキル向上のため外部研修に参加させる。 |
| 施 設 委 員 会 | 1 施設利用の検討 2 施設の維持管理の検討 | 全面改築を見据えた学科など継続的に検討する。 改築に向けて準備をしている。必要な備品など請求が遅れ購入できないものもあった。来年度は時期などをとらえ教員に周知させたい。 |

| | 今年度の取組目標 | 今年度の成果と課題 |
|-------------|---|--|
| 業者選定委員会 | 1 業者選定に関する検討 | 9,11月に実施し業者を適正に選定した。今後も適宜委員会を開催し公正な業者選定を実施する。 |
| SC・いじめ対策委員会 | 1 スクールカウンセリングに関する検討 2 いじめに関する検討 3 YSWに関する検討 | 月1回のSC委員会を開催している。SC、YSWなども参加していただき、生徒理解に努めた。今後も引き続き生徒理解と支援を実施する。 学期に1回アンケートを実施し、いじめ対策委員会で報告し、情報交換を行った結果をSC委員会で全教職員に周知した。 YSWとの情報交換により案件を解決した。今後はキャリア教育への支援を検討する。 |
| 学校サポートチーム | 1 緊急時いじめ対応に関する検討 2 外部委員と連携方法の検討 3 SC・いじめ対策委員会との連携 | 毎週木曜日生徒部会、月1回SC委員会、いじめ対策委員会等で生徒情報共有し緊急時に即対応できるような体制を構築した。今後もいじめを早期発見できる環境を整備する。 毎週木曜日生徒部会、緊急生徒部会で特別指導体制構築し実施した。今後も継続して体制を維持し活用をする。 年間3回のいじめアンケートを実施した。問題はない。今後も生徒情報を共有しいじめ防止を実施する。 |
| インターンシップ委員会 | 1 未就労生徒の指導に関する検討 2 実施内容の検討 | 飲食店とアニメーション制作会社の2社に、生徒4名を参加させた。現場での作業をとおし普段では学ぶことが出来ない就労感を学ぶことが出来た。 インターンシップの実施状況や結果を保護者に報告し、連携を強めました。事前指導や事後指導、発表会を計画・実施しました。 |
| 教科書選定委員会 | 1 教科書の調査研究 2 教科書の選定 | 新規発行された教科書調査を全て完了した。今後も本校生徒に適した教科書の採択に向けた調査研究を実施する。 年3回の委員会を実施し、平成30年度教科書選定届けを提出し教育委員会に承認された。今後も継続して選定業務を適切に実施する。 |
| 防災教育委員会 | 1 学校安全計画について検討 2 保護者、地域との連携の検討 | 9月と12月に防災教育委員会を開催し関係機関との連携の確認を行った。今後は、消防署、地域消防団が生徒に実施した各訓練内容を再検討する。 地域での防災訓練に参加した。今後はより実態に合わせた訓練を継続的に行う。 |
| 補助金審査委員会 | 1 補助金に関する検討 2 保護者対応 | 9, 12, 1, 3月に委員会を実施し、補助金申請者を了承した。今後も対象者に申請を促す指導を実施する。 保護者への周知を7月に実施し、その後は、審査会後に担任から保護者への周知を促した。今後も保護者と連携して申請を促す指導を実施する。 |
| 学力向上委員会 | 1 教科指導に関する検討 | 研究授業等で多くの先生方が自分の教科以外の授業を参観し有意義な成果が得られた。 |
| 安全衛生委員会 | 1 職場における安全衛生に関する検討 2 職員の健康維持 | 毎月1回の委員会を開催し、産業医を中心に労働環境の改善ができた。 職員の健康診断やインフルエンザの予防接種などを実施し職場環境の改善ができた。 |